

感じる！伝える!! 山陰が誇る大伽藍と仏教文化

大御堂廃寺跡は、飛鳥時代の7世紀中頃の創建とされる山陰地方最古級の大伽藍です。寺の敷地は大規模な整地で造成されており、主要な堂塔だけでなく、地方寺院では珍しい僧房や築地塀も備わっていました。伽藍は、大和飛鳥の大寺院のように整然としたものでした。

山陰唯一の蓮華文鬼瓦のほか、正倉院宝物にも類する銅製の匙や朝鮮半島新羅の銅で作られた獣頭の飾りなど優れた仏具も出土しています。

令和7(2024)年春、史跡指定地の北隣接地に鳥取県立美術館が開館するのに合わせて、互いの価値を引き出し高め合える整備を目指します。



大御堂廃寺跡と周辺文化財・文化施設



第2次発掘調査現地説明会(1997.11.8)



空中写真に重ねた大伽藍

◇本質的価値

- ①山陰最古級の中核古代寺院
- ②仏教文化の香り高い遺物と生活環境の実態の知れる遺物が豊富
- ③古墳時代から古代への変遷を読み取れる古墳・古代官道の立地

◇新たな価値評価の視点

- ①当時の姿を今に伝える周辺地形と景観
- ②史跡指定地の南側には中心伽藍(寺院の主要建物群)が残り、東側には関連遺跡が広がる可能性
- ③久米郡衙(郡を治める役所)や伯耆国庁との関係が深い寺院
- ④県立美術館開館による新たな付加価値の創出



銅製匙



鬼面文鬼瓦



銅製獣頭

○整備の現状と課題



築堤(撤去)



アスファルト舗装(撤去)



旗掲揚ポール(撤去)



溜樹位置のブロック囲い(撤去)



説明板(更新)



現状の史跡大御堂廃寺跡の様子
(打吹山を望む)

◇整備の課題(主なもの)

史跡とは関係のないものは撤去し、当時の寺院景観をイメージすることができる遺構表示や解説などを整備する必要があります。

○整備の基本理念・基本方針

◇整備の基本理念

大御堂廃寺跡の歴史を体感でき、
またイベント等を通し、
多くの人々が集い・学び・憩う場

県立美術館と活用の相乗効果が
発揮され、一体化した共有空間の場

まちづくりの一環として、
市民等との協働による
「つくり育てていく」史跡

◇整備の基本方針

1.本質的価値を

確実に保存・継承するための整備

大御堂廃寺跡の歴史を後世へ伝えるため、地下遺構の確実な保護を図り、その対策を講じる。

2.本質的価値を顕在化させるための整備

大御堂廃寺跡の価値や特徴、その歴史を体感できる整備を、ハード・ソフト両面で行う。

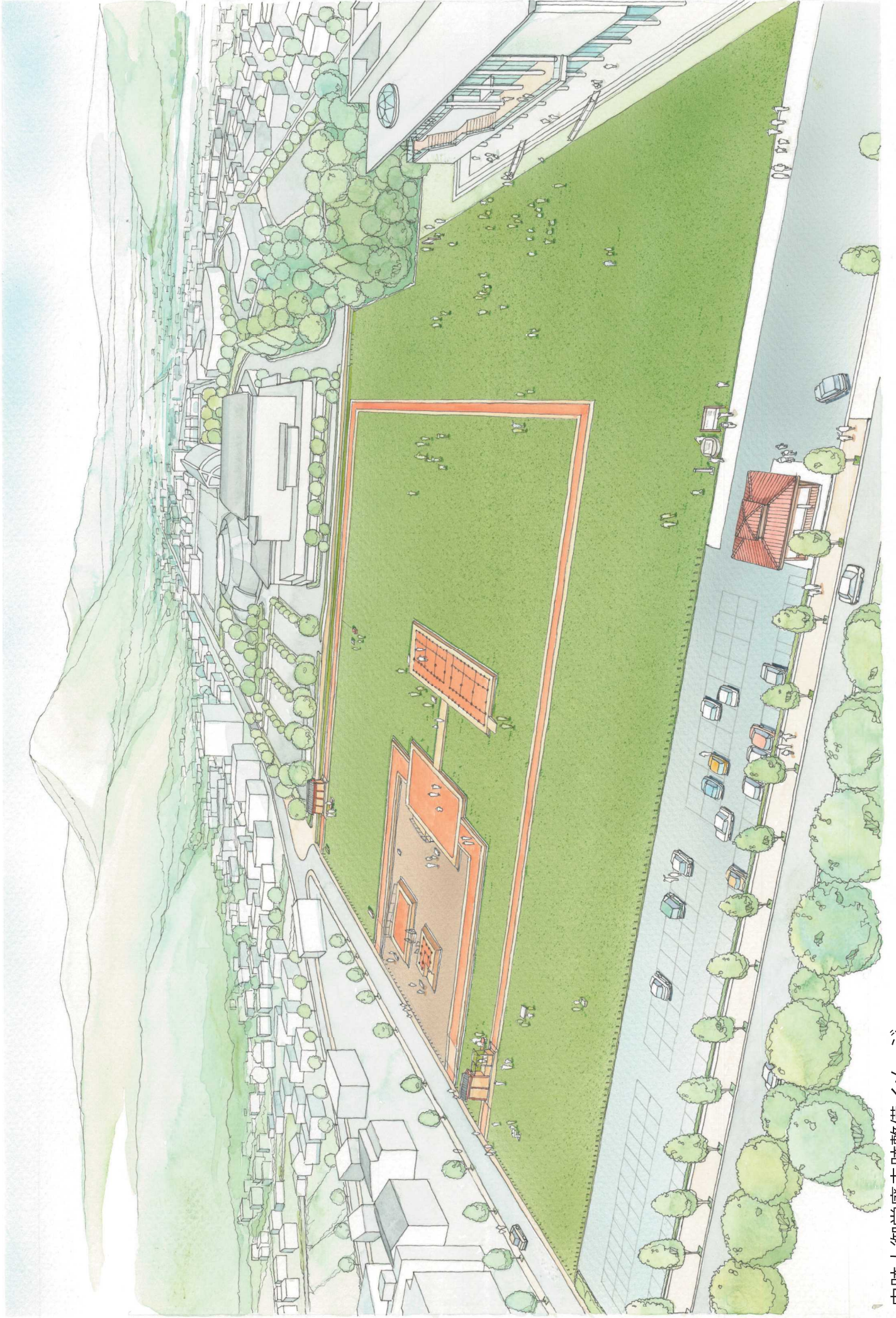
3.公開・活用するための整備

まちづくりの一環としてSDGsの理念のもと、「つくり育てていく」史跡とし、人々が集い・学び・憩うことのできる施設とする。

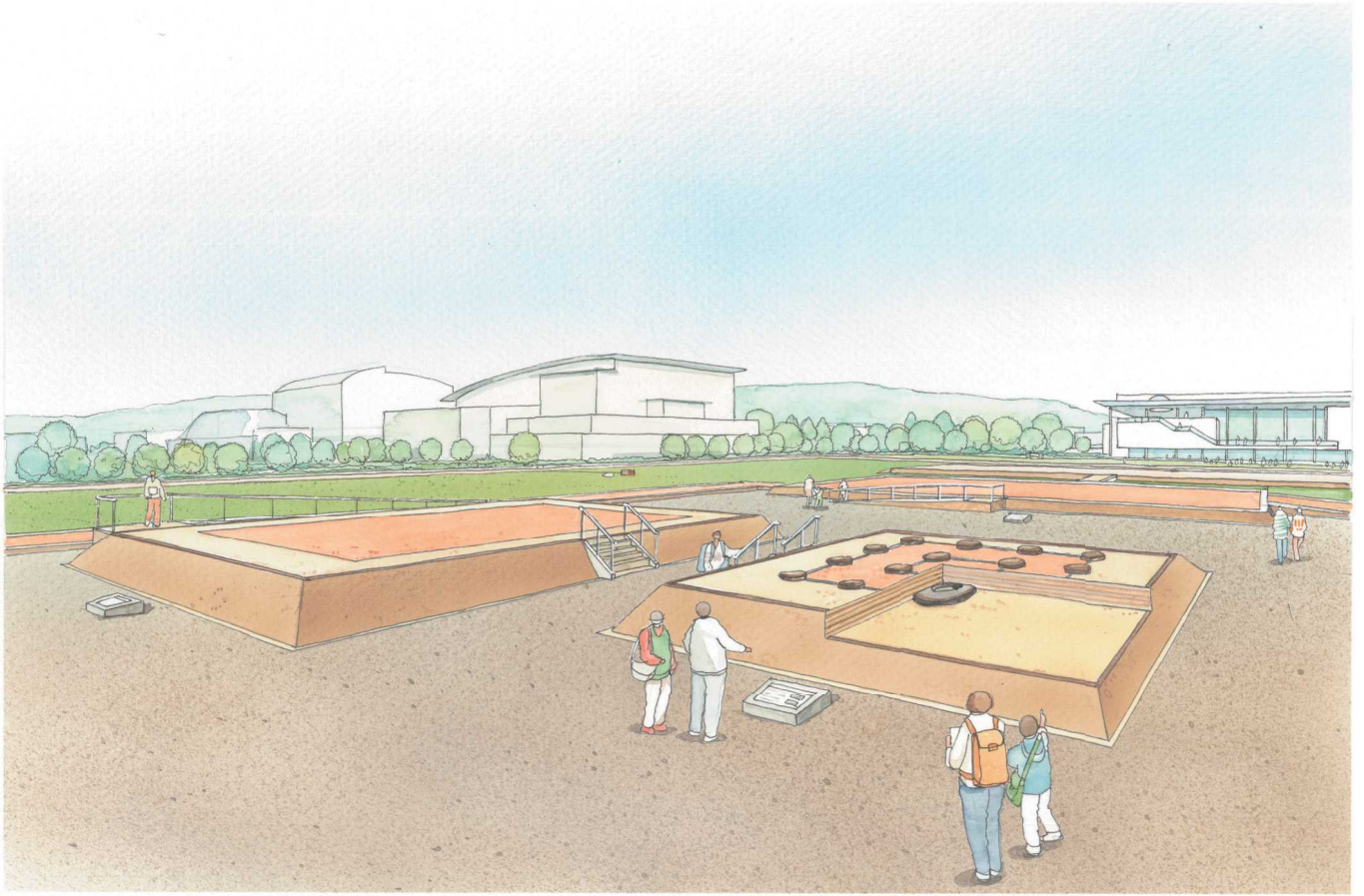
4.県立美術館をはじめとする

周辺環境を活かした整備

多くの人々と協働したまちづくりへつなげ、また県立美術館と一体化した共有空間として整備する。



史跡大御堂廃寺跡整備イメージ



塔・金堂整備イメージ



築地塀整備イメージ

○整備事業の内容



凡例

| | | | |
|-------------------|---------------|------------------|--------------------|
| 史跡指定範囲 | 舗装 芝生 | 遺構表示 復元・復元的整備 | サイン・便益施設等 全体説明板 |
| 県立美術館用地 | 土系舗装等 | 立体表示(基壇・溜枡) | 遺構説明板 |
| 動線 本史跡入口 | ガイダンス施設設置後の動線 | 平面表示(基壇・木樋) | 小型説明板 |
| 本史跡入口(ガイダンス施設設置後) | 管理の出入口(仮) | 平面表示(建物) | ベンチ |
| | | | 模型 |
| | | | 手洗い等 |
| | | | 史跡標柱 |
| | | | AR視点場 |
| | | | ポール |
| | | | QRコード追加 |
| | | | 階段 |
| | | | スロープ |

整備平面イメージ図

◇遺構の表示

発掘調査の成果をもとに、規模や配置・形態、その配置状況などの情報を模式的に表示します。
伽藍内建物の基壇は立体表示とし、建物範囲は平面表示とします。築地塀については、平面表示としますが一部復元的整備を行います。

◇案内・解説施設の設置

解説サインは、本史跡オリジナルのものとし、全体説明板は自立式、遺構説明板は台座式のものを使用し、本史跡の全体像を表示する復元模型(1/100)を設置します。
更に、溜枡では遺構説明板にQRコードを掲載し、追加写真等の情報を公開します。ほか、2か所の視点場を設け、ARにて当時の伽藍状況を表示させるなど、デジタルコンテンツを活用した案内・解説施設を整備します。

◇公開・活用について

幅広い層に本史跡への関心を持ってもらえるような公開・活用を実施します。それにつき、以下のような学習・体験を検討しています。

○築地塀の版築体験

復元的整備を行った北側に来訪者が版築作業を体験できるコーナーを設けます。

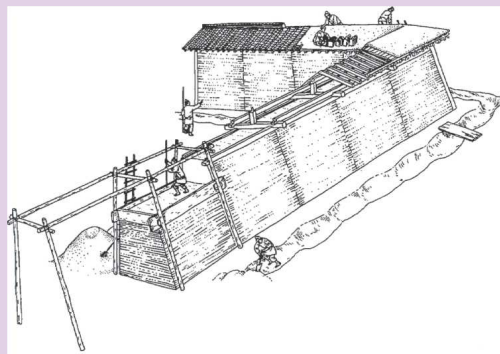
○塔心礎及び四天柱礎移動体験

塔の礎石を基壇まで移動させる体験と、塔基壇へ礎石を引き上げる体験を実施します。

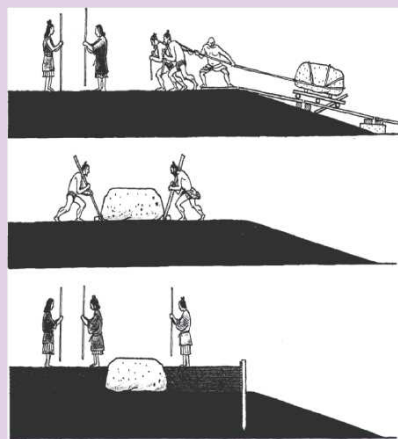
これらの他にも調査成果の周知やイベント等、本史跡ならではの本質的価値を実感してもらうための公開・活用事業を行います。



塔心礎・四天柱礎(上灘小学校)



「築地塀の造営作業想像図」
『古代の官衙遺跡 | 遺構編』奈良文化財研究所 2003



礎石設置の様子
『日本人はどのように建造物をつくってきたか1法隆寺』草思社 1980

○整備事業スケジュール

| | 第1期 (2021~2024) | | | | 第2期 (2025~) | |
|--------------|-------------------|----------------|----------------|-------------|---------------|----------------|
| | 令和3年度 2021 | 4年度 2022 | 5年度 2023 | 6年度 2024 | 令和7年度 2025 | 8年度以降 2026~ |
| ハード整備 | 基本設計 発掘調査等 | 実施設計 | 各種整備 礎石移動体験 | | | |
| ソフト整備 | 学習・体験、イベント、グッズ開発等 | パンフ作成、アプリ開発・運用 | 事業報告書作成 | | 版築体験 | |
| 実態把握、経過観察、評価 | | | | | | |
| 県立美術館 | 実施設計 | 建設工事 | | 開館準備 | 開館・運営 | |

編集・発行 : 倉吉市教育委員会事務局

発行年 : 令和3年(2021)3月

お問い合わせ先 : 倉吉市教育委員会事務局文化財課
〒682-8611 鳥取県倉吉市葵町722

電話番号 : 0858-22-4419

FAX番号 : 0858-22-2303